

池の湯・屈斜路コタン旧道

アイヌの人々は、かつて、北海道の湖や川の周辺や、海岸付近の「コタン」と呼ばれる村に暮らしていました。そしてサケやマスを釣り、陸上では狩猟採集を行っていました。水路は貴重な資源を提供し、移動や取引を可能にしました。屈斜路地方の主な居住区の 1 つが、屈斜路コタンです。釧路川源流付近の、屈斜路湖最南端の湖畔に位置しています。

摩周屈斜路トレイル（MKT）の一部が、池の湯温泉と屈斜路コタンを結ぶ旧道に続いています。森林地帯の湖畔を、約 4 キロにわたって進む道です。トレイル沿いにはオヒョウも生えており、アイヌの人々は、かつてその樹皮を使って織物用の糸を作っていました。夏と初秋には、テンナンショウ属や紫の花を咲かせるトリカブトなどの森林地帯の多年草がトレイルを彩ります。

何世代にもわたるアイヌの人々が、屈斜路コタンと池の湯を行き来し、池の湯に浸かる、あるいはその湯を使って織物用に、樹皮などの加工を行ってきました。また、屈斜路コタンアイヌ民族資料館では、アイヌの人々の昔の生活様式について学ぶことができます。古い写真や、道具や伝統衣装といった工芸品などが展示されています。アイヌ文化プログラムのプロバイダーと、湖や川のカヌーツアーを提供するアウトドアアクティビティガイドが屈斜路コタンを拠点としています。